

決算説明会 -2019年3月期第2四半期-

2018年11月29日（木）



空港施設株式会社

AIRPORT FACILITIES CO., LTD.

「私たちの使命」

空港を拠点とする活力ある民間企業として、
空港に必要な施設と機能を創造し提供する役割を担い、
航空の発展に貢献します。

機内食工場【東京国際空港】



コンテナメンテナンスビル【東京国際空港】



格納庫【北九州空港】



ヘリコプター整備施設【カガ・ラングレー空港】



目 次

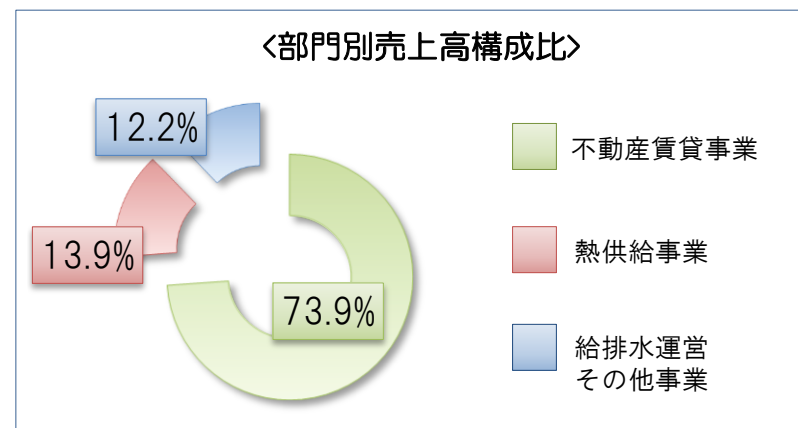
I.	当社概要	・・・	P1
II.	2019年3月期第2四半期 連結決算概要	・・・	P5
III.	2019年3月期 連結業績予想	・・・	P10
IV.	中期経営計画の進捗状況	・・・	P13
V.	トピックス	・・・	P17

I. 当社概要

～会社概要～

※2018年9月30日現在

会社名	空港施設株式会社
設立	1970年2月
資本金	68億2610万円
所在地	〒144-0041 東京都大田区羽田空港1-6-5 第五総合ビル
従業員数	連結122名、単体117名
発行株数	52,979,350株
株主数	6,833名
大株主	日本航空株式会社（19.86%） ANAホールディングス株式会社（19.85%） 株式会社日本政策投資銀行（13.06%）



- ＜連結子会社一覧＞
- ・東京空港冷暖房株式会社
 - ・AIRPORT FACILITIES ASIA PTE. LTD. (AFA)
 - ・AFN PROPERTIES LTD. (AFN)

不動産賃貸事業

- ・羽田空港を拠点に、国内12空港・海外2空港で多目的総合ビル、格納庫、整備工場、航空機洗機施設、SDプラント（航空機汚水処理施設）、航空貨物ターミナル施設等を建設し、航空会社、航空関連会社へ賃貸
- ・空港外（東京都心、羽田空港沿線、関西国際空港対岸など）でオフィスビル、航空関連施設、集合住宅等を賃貸
- ・海外（シンガポール・カナダ）において航空関連施設を建設・賃貸

熱供給事業

- ・羽田空港の国内旅客、国内貨物、新整備場地区で、グループ会社の東京空港冷暖房株式会社が地域冷暖房事業を展開
- ・当社施設をはじめ、第1・第2旅客ターミナルビル、官庁庁舎等の空港内諸施設へ供給

給排水運営その他事業

- ・羽田空港を中心に新千歳空港、伊丹空港にて給排水（上下水道）の運営管理を実施
- ・羽田空港の国内・国際旅客、国内・国際貨物、新整備場地区にて共用通信事業を展開
- ・空港内外における再生可能エネルギー（太陽光発電事業）等の事業を展開

I. 当社概要

～空港関連事業（不動産賃貸事業）～

羽田空港を拠点に、国内12空港・海外2空港にて航空関連施設を展開

<当社提供施設（一部）>



《新千歳空港》



《仙台空港》



《東京国際（羽田）空港》



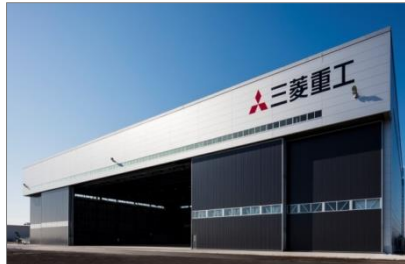
《関西国際空港》



《神戸空港》



《広島ヘリポート》



《北九州空港》



《ラングレー空港（カナダ）》







《セレーター空港（シンガポール）》



《セレーター空港（シンガポール）》

<地域別売上構成比>

	羽田空港	:	78.2%
	伊丹・関空・神戸	:	3.4%
	その他地方空港	:	4.5%
	その他（海外含む）	:	13.9%



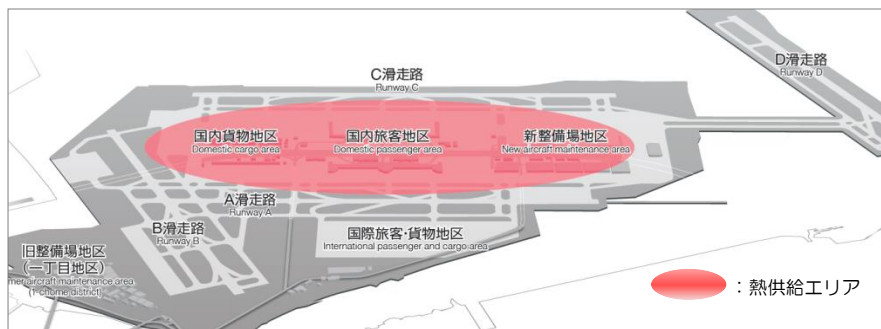
I. 当社概要

～空港関連事業（インフラ事業）～

不動産賃貸事業の他、空港内の各種インフラ事業にも取り組む

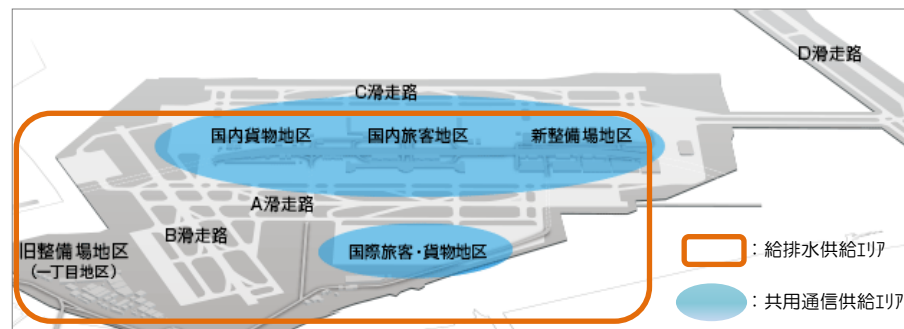
<熱供給事業>

- グループ会社の東京空港冷暖房(株)が、羽田空港内の国内旅客、国内貨物、新整備場地区一帯へ地域冷暖房を供給。



<給排水運営その他事業>

- (給排水運営事業) 羽田空港等で上下水道の運営管理を実施
- (共用通信事業) 羽田空港内にて基幹通信網を整備、データ通信サービスを提供



航空機の運航をサポートする施設を羽田空港や地方空港にて提供

<SDプラント>

【施設概要】

- 航空機からの汚水を処理する施設
※SD：Sanitary Disposalの略
- 活性汚泥菌による曝気処理により、汚水を浄化し水質を保全

【展開空港】

- 羽田空港や関西国際空港を含む、計8空港



SDプラント（羽田空港）

<航空機洗機施設>

【施設概要】

- 航空機の腐食防止、美観維持、燃費効率の向上等を目的とし、機体の汚れを洗い落とす施設

【展開空港】

- 羽田空港



洗機作業の様子（羽田空港）

I. 当社概要

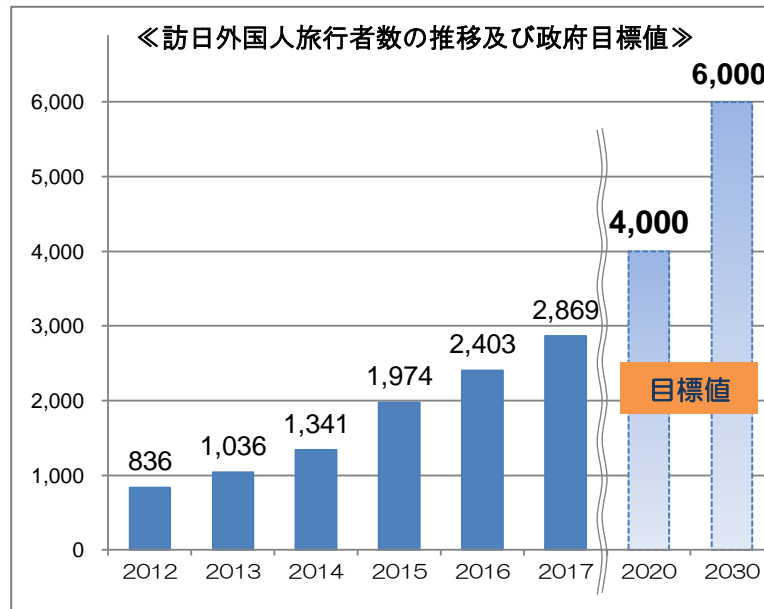
～羽田空港の機能強化～

＜現在の羽田空港を取り巻く環境＞

- 訪日旅客数の増加
(政府策定の観光ビジョンにおける目標値) 2020年：4,000万人 2030年：6,000万人
- 2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う航空需要の更なる増大



発着容量増加等の機能強化策を進め、2020年までに国際線の増便実現を目指す



出典：国土交通省ホームページ (<http://www.mlit.go.jp/>)
「羽田空港のこれから」 (<http://www.mlit.go.jp/koku/haneda/>) を加工して作成

出典：「日本政府観光局 (JNTO)」よりデータを引用し作成
※2020年及び2030年の数値は政府目標値

Ⅱ. 2019年3月期第2四半期 連結決算概要

～ポイント～

1. 羽田空港内の入居改善、地方空港の新規物件稼働
⇒売上・純利益ともに増収・増益

2. 売上高122億円 (対前年同期比6.9%増)、営業利益22億円 (対前年同期比4.2%増)
純利益※13億円 (対前年同期比7.6%増)

3. 株主還元として中間配当を実施
・ 中間配当金 7円 (2018年10月25日開催 取締役会決議)

※純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

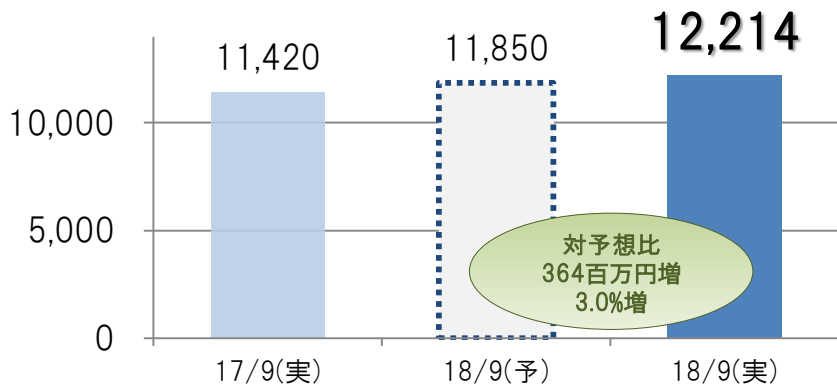
Ⅱ. 2019年3月期第2四半期 連結決算概要

単位：百万円

～連結PL～

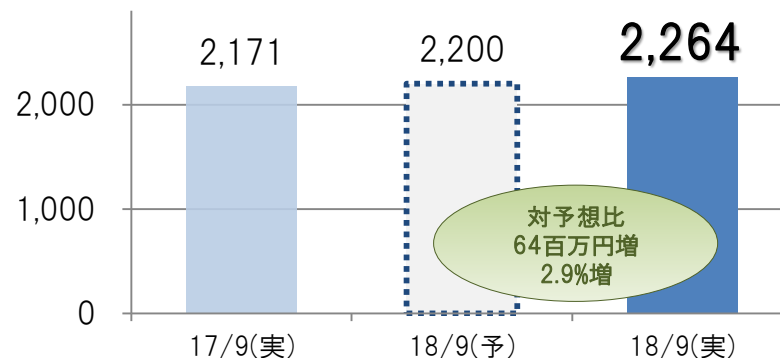
売上高

対前年同期比
794百万円増
6.9%増



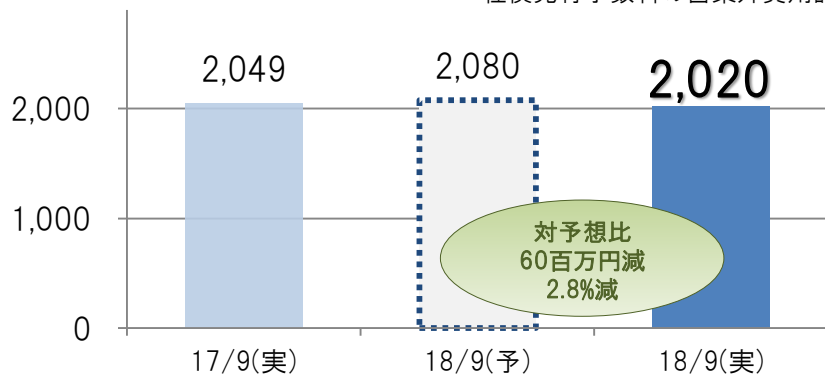
営業利益

対前年同期比
93百万円増
4.2%増



経常利益

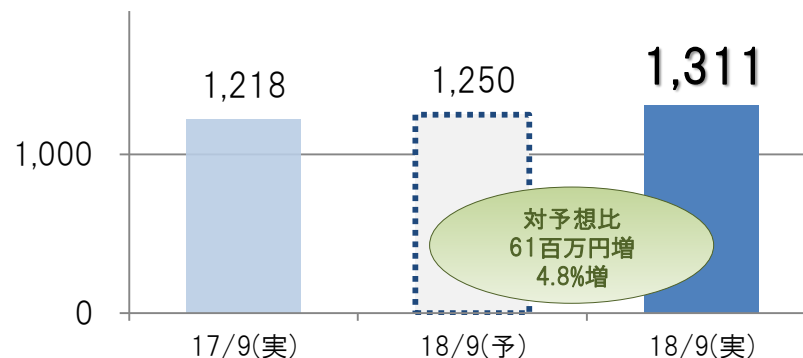
対前年同期比
28百万円減
1.3%減



※一部老朽設備更新に伴う撤去費用引当金や社債発行手数料の営業外費用計上により減少

親会社株主に帰属する 四半期純利益

対前年同期比
92百万円増
7.6%増



Ⅱ. 2019年3月期第2四半期 連結決算概要

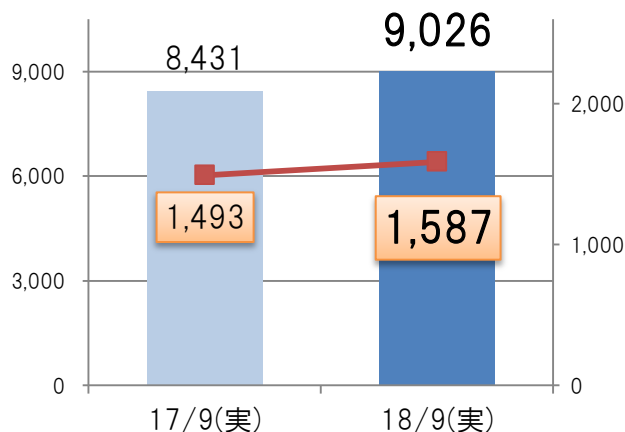
単位：百万円

～セグメント別～

■：売上高（棒グラフ）
■：営業利益（折線グラフ）

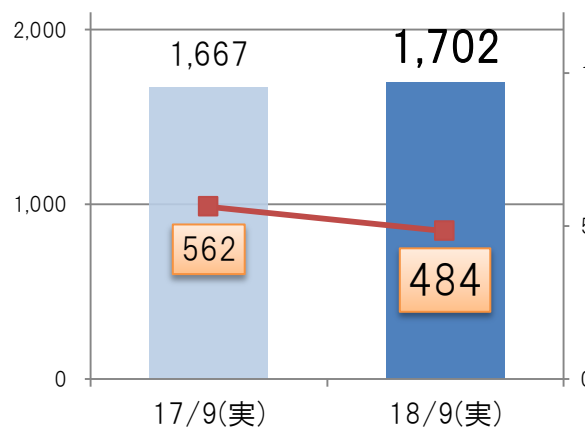
不動産賃貸事業

対前年同期比
（売上高）595百万円増（7.0%増）
（営業利益）93百万円増（6.2%増）



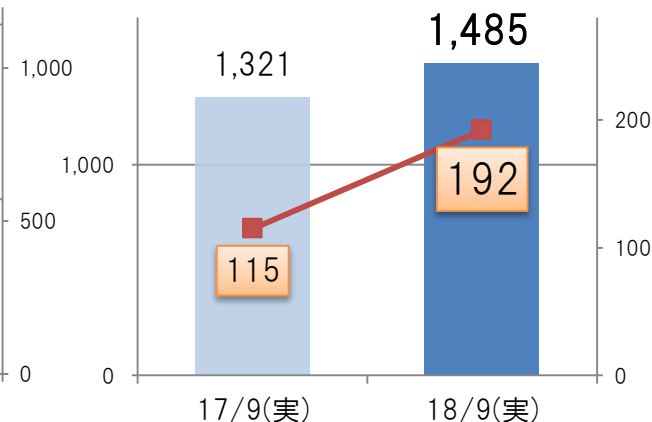
熱供給事業

対前年同期比
（売上高）35百万円増（2.1%増）
（営業利益）77百万円減（13.8%減）



給排水運営その他事業

対前年同期比
（売上高）163百万円増（12.4%増）
（営業利益）77百万円増（67.0%増）



《主な増減要因》

【売上高】

- ・羽田空港の入居改善及び地方空港の通年稼働
- ・空港外物件の通年稼働及び京都ホテルの取得
- ・カナダ子会社（AFN）の連結寄与

【売上高】

- ・羽田空港沖合地区の地域冷暖房売上が堅調に推移
※夏季猛暑

【売上高】

- ・空港内各種工事への水供給の増加
- ・太陽光発電設備の通年稼働（大田区平和島）

【営業利益】

- ・売上増の効果により増加

【営業利益】

- ・燃料費の増加等により減少

【営業利益】

- ・売上増の効果により増加

Ⅱ. 2019年3月期第2四半期 連結決算概要

～財務状況～

【 連結貸借対照表】

(資 産) 京都のホテル5棟の取得等により増加

(負 債) 京都のホテル取得に伴う社債の発行と長期借入金の増加等により増加

(純資産) 利益剰余金の増加等により増加

2018年3月末

単位：百万円

流動資産	17,531	流動負債	10,050
		固定負債	23,428
固定資産	70,430	負債合計	33,479
		純資産	54,482
資産合計	87,961	負債純資産合計	87,961

1株当たり純資産 1,050円

自己資本比率 59.4%

前事業年度比
11,406百万円増

2018年9月末

単位：百万円

流動資産	20,900 (+3,369)	流動負債	9,879 (△171)
		固定負債	34,085 (+10,657)
固定資産	78,467 (+8,037)	負債合計	43,965 (+10,486)
		純資産	55,402 (+920)
資産合計	99,367 (+11,406)	負債純資産合計	99,367 (+11,406)

1株当たり純資産 1,067円

自己資本比率 53.4%

Ⅱ. 2019年3月期第2四半期 連結決算概要

～財務状況～

【連結キャッシュ・フロー】

単位：百万円

科 目	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,721	1,835	△886
投資活動によるキャッシュ・フロー(△は増加)	△1,801	△10,434	△8,633
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,059	8,837	10,896
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,132	197	1,330
現金及び現金同等物の期首残高	5,713	4,608	△1,105
現金及び現金同等物の四半期残高	4,580	4,854	273

【主な増減要因】

営業活動によるキャッシュ・フロー	税金等調整前四半期純利益による収入と 海外子会社での営業貸付金の支出の増加等により減少
投資活動によるキャッシュ・フロー	京都のホテル5棟の固定資産取得により増加
財務活動によるキャッシュ・フロー	京都ホテル取得に伴う社債の発行と 長期借入金の増加により増加

Ⅲ. 2019年3月期 連結業績予想

～ポイント～

(中期経営計画 最終年度)

1. 売上・利益ともに予想数値達成を見込む

2. 売上高236億円 (対前年同期比3.9%増)、営業利益41億円 (対前年同期比1.9%増)
純利益※22億円 (対前年同期比3.2%増)

3. 安定的かつ持続的な株主還元を努める

- ・年間配当金14円 (予定) (中間配当金7円、期末配当金7円)
- ・配当性向 (連結) 30.3% (予定)

【参考】年間配当金 推移 (2019年3月期は予定)

2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
13円 (中間6円、期末7円)	14円 (中間7円、期末7円)	14円 (中間7円、期末7円(予定))

※純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

Ⅲ. 2019年3月期 連結業績予想

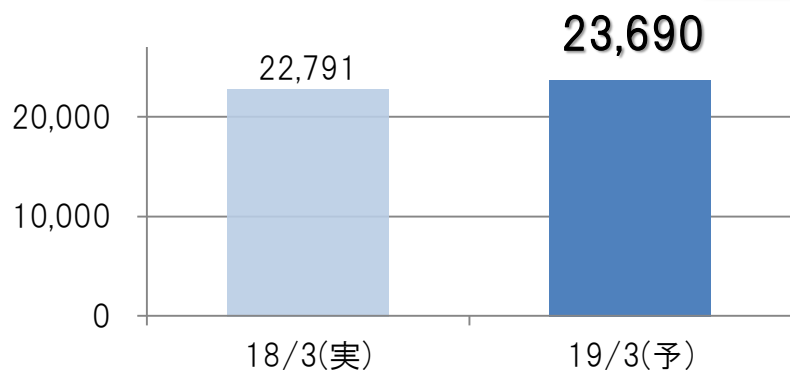
単位：百万円

～連結PL～

期初予想どおりの推移を見込む

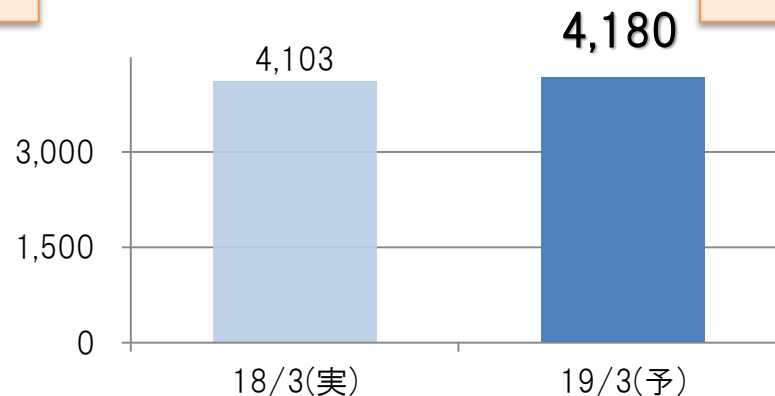
売上高

対前年同期比
899百万円増
3.9%増



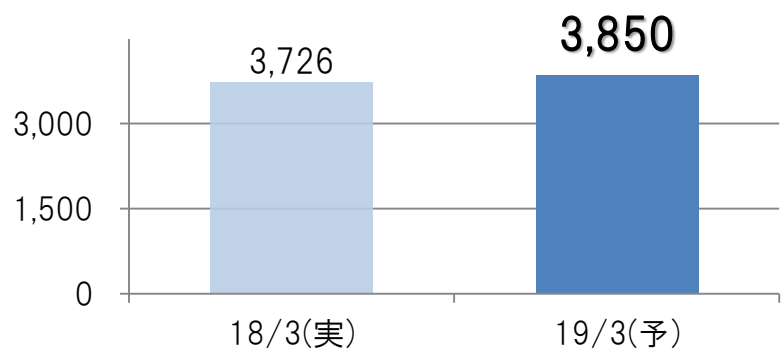
営業利益

対前年同期比
77百万円増
1.9%増



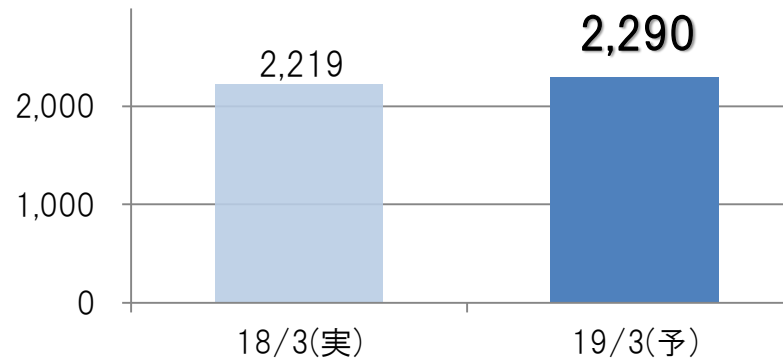
経常利益

対前年同期比
124百万円増
3.3%増



親会社株主に帰属する 当期純利益

対前年同期比
71百万円増
3.2%増



Ⅲ. 2019年3月期 連結業績予想

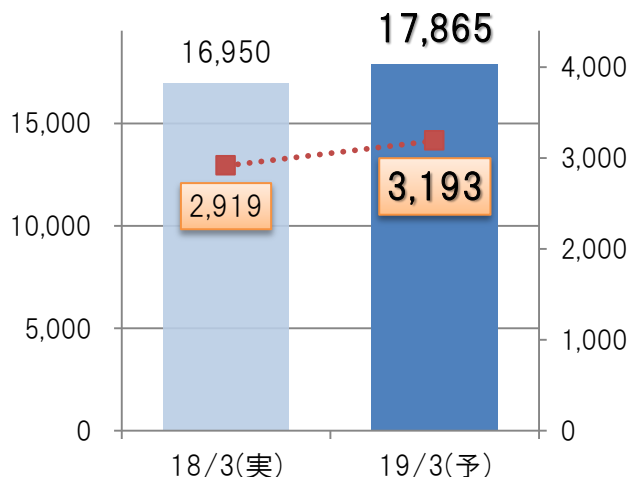
単位：百万円

～セグメント別～

■：売上高（棒グラフ）
■：営業利益（折線グラフ）

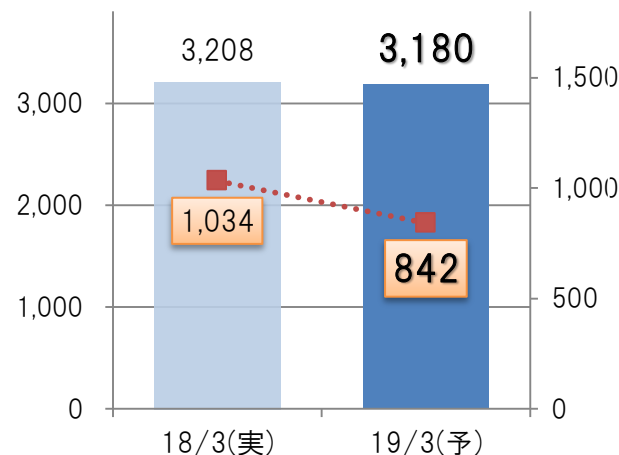
不動産賃貸事業

対前年同期比
（売上高）915百万円増（5.4%増）
（営業利益）274百万円増（9.4%増）



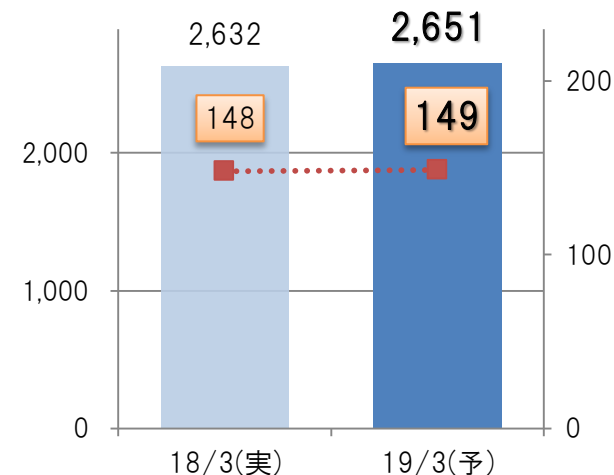
熱供給事業

対前年同期比
（売上高）28百万円減（0.9%減）
（営業利益）192百万円減（18.6%減）



給排水運営その他事業

対前年同期比
（売上高）19百万円増（0.7%増）
（営業利益）1百万円増（0.7%増）



《主な増減要因》

【売上高】

- ・テナント入居状況の改善（羽田空港）
- ・新規施設の通年稼働（空港外物件、地方空港、海外）

【営業利益】

- ・売上増の効果もあり増加

【売上高】

- ・羽田空港沖合地区の地域冷暖房売上が微減（過去3年間の供給量の平均値に基づき算出）

【営業利益】

- ・電気、ガスの値上がりや償却費及び修繕費の増加を見込み減少

【売上高】

- ・給排水事業の売上が堅調に推移（羽田・新千歳）
- ・太陽光発電事業の通年化（大田区平和島）

【営業利益】

- ・売上増の効果もあり微増

IV. 中期経営計画の進捗状況

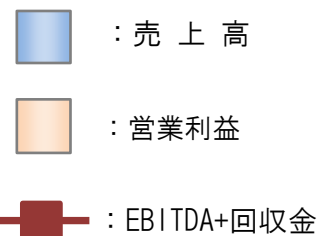
単位：百万円

中期経営計画 “Challenge to the next step”

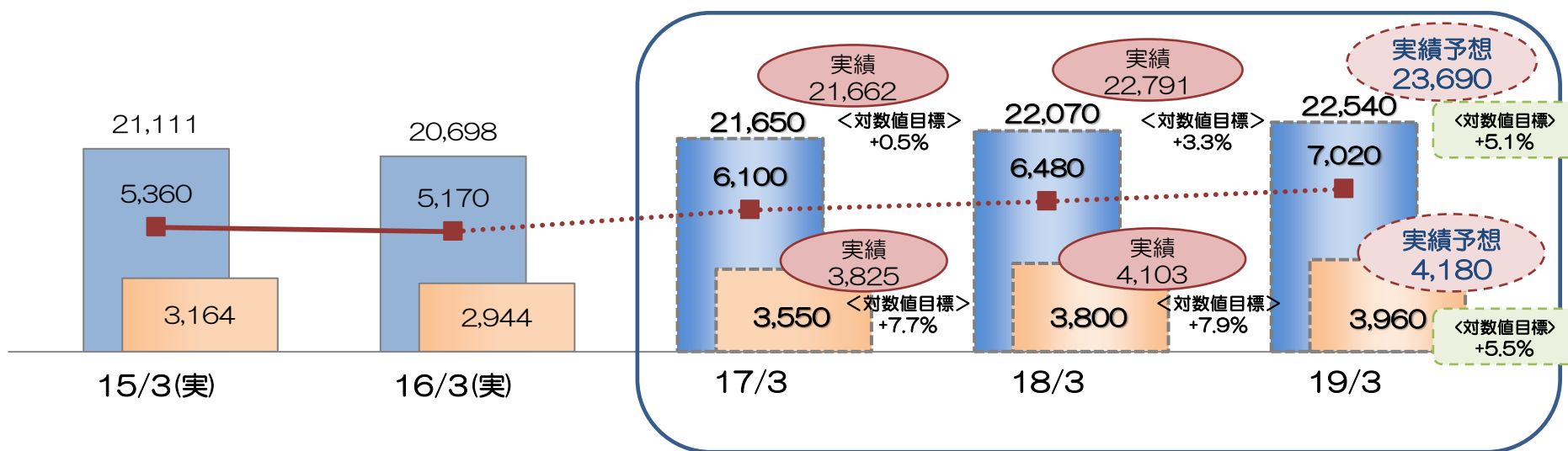
※2016年10月27日策定

3カ年における進捗状況について

売上高・営業利益ともに数値目標を概ね上回る見込み



【数値目標及び実績(実績予想)】



《中期的な収支財務の計画について》

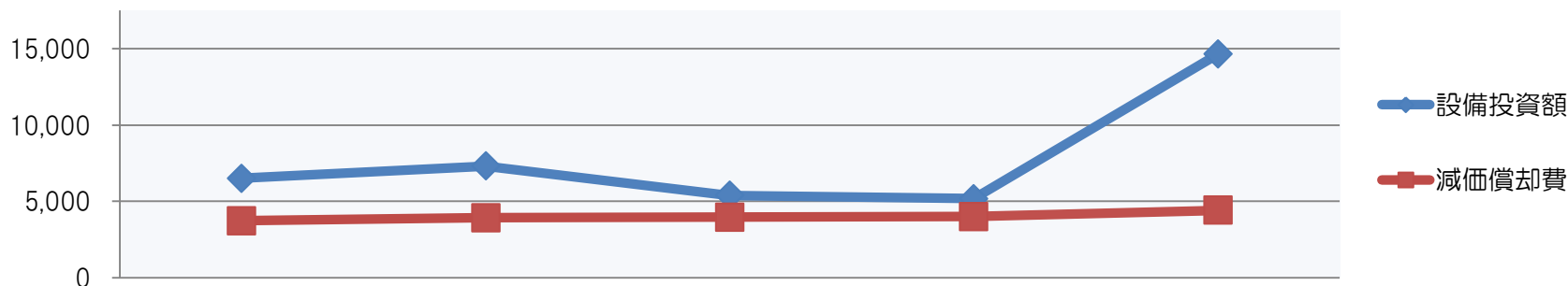
航空の発展に寄与するとともに、キャッシュフローを上回る積極的投資を行い、健全な財務基盤と利益成長を基礎とし、今後連結配当性向30%以上の、安定的かつ持続的な株主還元を増加を目指します。

IV. 中期経営計画の進捗状況

中期経営計画 “Challenge to the next step”

設備投資額と減価償却費の推移（連結）

単位：百万円



	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期 (予想)
設備投資額	6,517	7,309	5,388	5,178	14,938
減価償却費	3,729	3,928	3,952	4,000	4,409

※設備投資額には「ファイナンスリース資産」を、減価償却費には「リース資産原価」をそれぞれ含んでおります

主な設備投資

*1

2015年3月期	スカイゲート大鳥居、広島格納庫、ハクターエアスペース・アジア社向け整備工場（ツガポール）
2016年3月期	ホテル（羽田旭町）、共用通信設備更新、太陽光発電（岐阜瑞浪）、海外（AATC、SIM）
2017年3月期	北九州空港格納庫、海外（AATC建物他）
2018年3月期	太陽光発電（流通センター）、仙台第三格納庫、スカイゲート川崎大師、蒲田共同住宅 ボイラー更新Ⅰ期（東京空港冷暖房）
2019年3月期(予定)	ホテル（京都）、ボイラー更新Ⅱ期（東京空港冷暖房）、神戸格納庫（土地取得費の一部）

*1 主な設備投資は取得または竣工時期ベースで記載。

IV. 中期経営計画の進捗状況

中期経営計画 “Challenge to the next step”

①羽田空港及び羽田空港周辺における取り組み

【事業環境】

- ◇訪日旅客数の増大
- ◇東京オリンピック・パラリンピックの開催決定
- ◇羽田空港の機能強化（発着回数の増加）

【当社の主な取り組み】

- ◇空港内での航空関連施設の提供（空室対策）
- ◇「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業」への参画
- ◇空港沿線での共同住宅やホテルの提供



《スカイレジデンス川崎大師》



《羽田空港跡地第1ゾーン整備事業》

②地方空港における取り組み

【事業環境】

- ◇国内外航空網の強化に伴う空港機能の強化
- ◇民活空港運営法による空港運営の開始

【当社の主な取り組み】

- ◇航空事業者のニーズに応える施設提供

※新千歳：(株)エスエーエス 仙台：オールニッポンハリコター(株)
鹿児島：日本エアミューター(株) 北九州：三菱重工業(株)

- ◇コンセッションへの参画検討



《新千歳空港》



《鹿児島空港》

IV. 中期経営計画の進捗状況

中期経営計画 “Challenge to the next step”

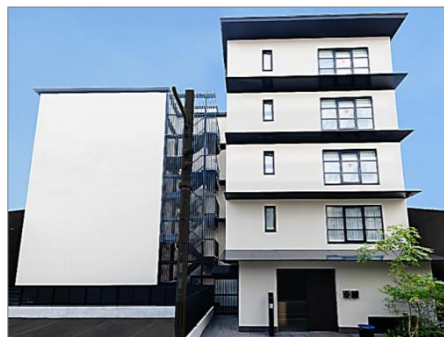
③空港外における事業領域拡張を目指す取り組み

【事業環境】

- ◇宿泊需要の増加（訪日客の増加）
- ◇再生可能エネルギー事業への取り組み

【当社の主な取り組み】

- ◇ホテルの提供（空港沿線、京都）
- ◇都心最大級の太陽光発電設備の建設（大田区平和島）



《ホテル（京都）》



《TRC物流ビルB棟屋根ソーラー発電所》

④海外における取り組み

【事業環境】

- ◇海外（特にアジア圏）の航空需要増大
- ◇整備・訓練等に関するコストの外部化

【当社の主な取り組み】

- ◇航空関連施設の提供（シンガポール）
- ◇MRO事業者向け施設の提供（シンガポール）
- ◇小型機用整備施設の提供（カナダ）



《格納庫(セレーター空港)》



《小型機用整備施設(ラングレー空港)》

V. トピックス

～ホテル事業～

京都での新規ホテル投資を通じ、更なる事業領域の拡張を目指す

10月15日 京都の中心市街地にて、趣がそれぞれ異なる5棟のホテルが開業

名 称	ENSO ANGO (エンソウ アンゴ) ※5棟のホテルが分散するディスパースト・ホテル
物件概要	■ ENSO ANGO 麩屋町通Ⅱ 客室数：86室 延床面積：約3,532㎡ ■ ENSO ANGO 富小路通Ⅱ 客室数：75室 延床面積：約2,834㎡ ■ ENSO ANGO 富小路通Ⅰ 客室数：29室 延床面積：約862㎡ ■ ENSO ANGO 大和大路通Ⅰ 客室数：23室 延床面積：約616㎡ ■ ENSO ANGO 麩屋町通Ⅰ 客室数：16室 延床面積：約538㎡
総客室数	229室
賃貸先	株式会社グローバル・ホテルマネジメント
運営	株式会社グローバル・ホテルマネジメント ANGOホテルズ株式会社
竣工日	2018年6月29日 ※賃貸借契約開始日

※客室数が多い施設より順番に記載



<ロケーションマップ>

ホテルのブランドは「ENSO ANGO(エンソウ アンゴ)」

- ⇒京都の中心市街地である四条と五条に挟まれた麩屋町通、富小路通、大和大路通の京町家跡地に建つ5棟のホテルの総称
- ⇒町に溶け込む共通のシンプルな外観をもちながら、それぞれ異なった施設と客室タイプをもつ。
- ⇒町とつながりながら相互利用可能な全体でひとつのホテル機能を融合

※「ENSO」⇒『円相』：真理と向き合うための象徴

「ANGO」⇒『安居』：心の発見を意図した言葉

「ENSO ANGO」⇒無限の可能性を秘めた、人と人、行為と出来事が多様な出会いと縁を結ぶ。

V. トピックス

《ホテル外観及び内観（客室）》

Small Luxury Hotels of The World に
京都のホテルとして初めてENSO ANGO 麩屋町通Ⅱが加盟



<ENSO ANGO 麩屋町通Ⅱ>



スモール・ラグジュアリー・ホテルズ・オブ・ザ・ワールド
(Small Luxury Hotels of The World (SLH))

※世界80カ国以上、500を超える小規模独立系かつ高級で
個性的なホテルで構成されたホテルコレクションブランド
2018年10月、日本で13番目に加盟（京都では第1号）



<ENSO ANGO 富小路通Ⅰ>



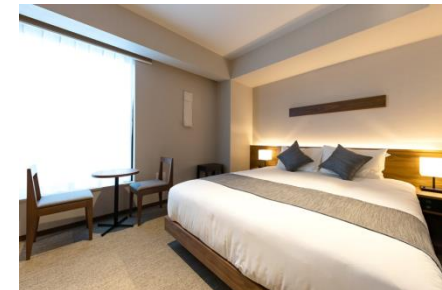
<ENSO ANGO 富小路通Ⅱ>



<ENSO ANGO 大和大道通Ⅰ>



<ENSO ANGO 麩屋町通Ⅰ>



V. トピックス

～地方空港～

神戸空港にて航空事業者のニーズに応えた施設提供を推進

New! 神戸空港格納庫増築のため、神戸市より神戸空港島小型航空機機能用地を買受（借受）予定

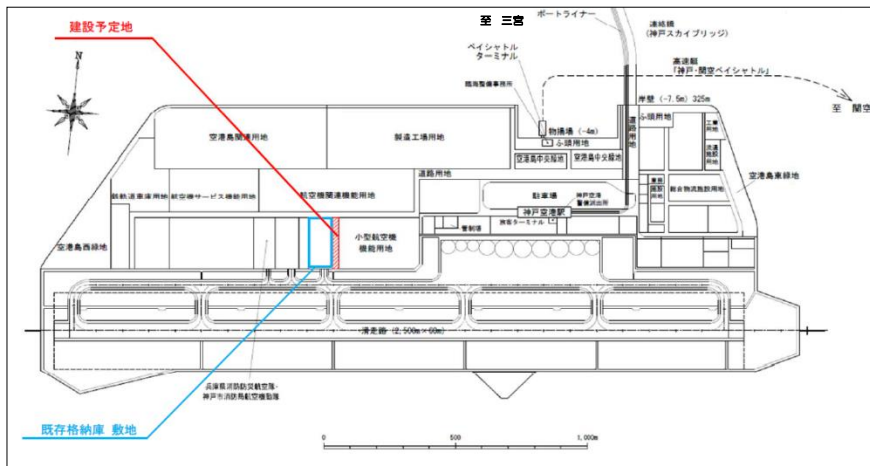
取得用地	5,304㎡（売買面積：2,267.2㎡、賃貸面積：3,036.8㎡）
賃貸先	エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン(株)
着工予定	2019年 6月（予定）
竣工予定	2019年11月（予定）



＜神戸格納庫（既存部） 外観＞



＜神戸格納庫（既存部） 内観＞



＜神戸空港（建設予定地）＞

神戸空港以外でも複数の投資案件（空港内外）について検討中

免責事項

ご注意

- 本資料は、投資勧誘の目的のための資料ではありません。
- 将来に関する部分については、現時点で入手可能な情報に基づくものであり、事業環境の変化などによって異なる結果になる可能性があります。
- 投資等に関する重要な決定は、ご利用者のご判断でお願い申し上げます。

本資料は、ホームページでもご覧頂けます。

<http://www.afc.jp/>

お問い合わせ先

空港施設株式会社 広報室

TEL : 03-3747-0253

FAX : 03-3747-0225

E-MAIL : afc@afc.jp